

だがしや楽校

@

YAMAGATA アーツ・ラウンド

ROUND 4 in 山形県県民会館

日時：2011 年 10 月 15 日（土）・16 日（日） 10:00～17:00

場所：山形県県民会館（山形市）

2011 年 10 月 15 日（[土曜日](#)）山形市の天気：曇り

【だがしや楽校 @ YAMAGATA アーツ・ラウンド ROUND 4 in 山形県県民会館】

“YAMAGATA アーツ・ラウンド ROUND 4 in 山形県県民会館”が山形市内（山形県県民会館）にて開催されました。

“YAMAGATA アーツ・ラウンド”の事実上の1回目“ROUNDゼロ”が文翔館にて開催されて早4年が経ちました。毎月1回“楽描き”を開く“青春あべNEWだがしや楽校”のRIKUさんは“ROUNDゼロ”からスタッフとして関わってきたこともあり、“YAMAGATA アーツ・ラウンド”では毎回“だがしや楽校”のブースが設けられます。

自分を表現するという意味で、アートと“だがしや楽校”は共通していると言われており、“YAMAGATA アーツ・ラウンド”での“だがしや楽校”は大変注目することができます。

“だがしや楽校”普及事業を展開している私（山口）も、“だがしや楽校”の可能性を探るという意味に於いても強く関心を持っていますので、毎年のように取材・見学しています。しかし、今年は、ほかの“だがしや楽校”での取材等の対応があり、2日間開催の内、取材・見学できたのは、初日（15日）の午後2時迄でした。

とても残念なのですが、時間の許す限り見て回りましたので、ご紹介します。

それでは、事実上5回目となる“ROUND 4”の開催にあたって、主催者からのメッセージをご紹介します。

『YAMAGATA アーツ・ラウンド』は、（山形）県内で活動する若きアーティストたちへ発表と交流の場の提供を目指して2007年に立ち上げたプロジェクトです。

“ROUND・ゼロ”を皮切りに、文翔館を会場として開催してきた4年間で、延べ2,300人に迫る出場者と27,000人の来場者にご参加いただきました。

今回も、400名の方々から“あなたがアートと思うもの”をさまざまなジャンルから持ち寄っていただきました。2日間、ここにかないアートシーンを思いっきり体感してください。そして“ラウンド”に込めた“つながる・ひろがる・まわっていく”アートを通じての交流の輪を、よりいっそう大きな輪にしていきましょう。

YAMAGATAアーツ・ラウンド実行委員会

メッセージの中で「文翔館を会場に・・・」とありましたが、文翔館（旧山形県庁）での開催は“ROUND2”迄で、昨年の“ROUND3”からは山形県県民会館での開催です。

この会場変更については、いろいろ事情はあるのですが、“だがしや楽校”のスペースが小さくなり“楽描き”ができなくなってしまったことが残念です。それでも楽しい雰囲気は変わりませんので、短い時間ですが、楽しみましょう。

まず、“YAMAGATAアーツ・ラウンド”がどんなプロジェクトなのかを知っていただくために、いくつかのブース・展示・発表をご紹介します。ちなみに、今回の参加者数は・・・

■ステージ・パフォーマンス・・・40団体・個人

■ブース発表・ギャラリー展示・・・21団体・個人（だがしや楽校はここに入っていました）

■ワークショップ・・・7団体・個人

■パフォーマンス・アコースティック・・・12団体・個人

来場者参加型である“だがしや楽校”はワークショップに入ると思うのですが・・・、あまり深く考えないで、早速見てみましょう

会場の山形県県民会館の壁面には、今回も過去4回の巨大らくがきが展示されました。



↑西側壁面に展示されたのは、左から“ROUNDゼロ”“ROUND1”“ROUND2”の巨大らくがきです。



↑ 正面入口近くの壁面に展示されたのは、1年前の“ROUND 3”の巨大らくがきです。

◆巨大らくがき



巨大らくがきは、このように、みんなで自由に描いていきます。さて、今回はどんな“作品”になったのでしょうか。それは、2日目（10月16日）のフィナーレで発表されたはずです。しかし、今回は見ることができず、残念！

◆KAMODAクラフト教室



アーツ・ラウンド初参加です。

革をスタンピングして穴をあけたり染めたりして、しおりやコースターを作っています。革の材料は牛です。

出展している鴨田さんは大江町（左沢）で、革を使ったバッグや小物入れを作っています。デザインから型紙づくりも、すべて鴨田さんが行います。バッグでは、携帯電話の収納性を考慮しながら、機能的なものにします。そして、手縫いにより、その人だけのモノを作ります。



ブースには、鴨田さんが作られたバッグやカードケースが展示されています。スタンピングして穴があいているカードケースの中に折り紙を入れて、季節感を出すこともできます。ちょっとした心遣いです。

教室は、木曜日の午前と、土曜日は午前と午後に開いています。山形市や天童市から通う生徒もいるそうです。

◆ステージ：ダンス／ストリートダンス



県民会館大ホールでは、ステージ・パフォーマンスが紹介されました。写真は、ダンススタジオチームによるストリートダンスです。

◆山形大学手芸サークルうとの会

アーツ・ラウンドには毎回出展している“山形大学手芸サークルうとの会”。今年は、アメリカンフラワーの展示とワークショップを行っています。アメリカンフラワーは私も初めてでしたので、スタッフの方に聞いてみますと、まだマイナーな存在だそうです。



ワイヤーを花の形にして、それに樹脂液を付けて膜を張ります。それを乾かして、花や蝶を作っていきます。

体験コースでは、初級の四つ葉のクローバー作り、中級のお花作り、上級のバラ作りの3コースで、アメリカンフラワーを体験できます。

“山形大学手芸サークルうとの会”は結成5年目。20名弱のメンバーで活動しています。



▼ステージ：大道芸



山形大学ジャグリングサークル～JWN～による大道芸の演技です。

◆乱乱流☆お絵かき部

女性2人による展示ブースです。

お一人は切り絵を紹介しています。切り絵と言っても、ハサミを使う切り絵もありますが、これはカッターを使っの切り絵です。アーツ・ラウンドは初回（ROUNDゼロ）から参加しています。



もう一人の方（学生さん）は、パソコンで描いたイラストを展示しています。パンフレットには“萌え系のイラスト”と紹介されています。

お二人が出会ったのは、なんとダンスサークル。ダンスと切り絵・イラストとの関係は・・・？

そのダンスサークルで「サークルのマーク・イラストを作りたい」となり、絵・アートが趣味であり、得意だったお二人が作ることになりましたが、その際に作ったのが、絵つながりのチーム“乱乱流（らんらんるー）のお絵かき部”です。

チームでのアーツ・ラウンド参加は3回目です。

なかなか楽しいお二人で、インタビューでの会話も弾みました。



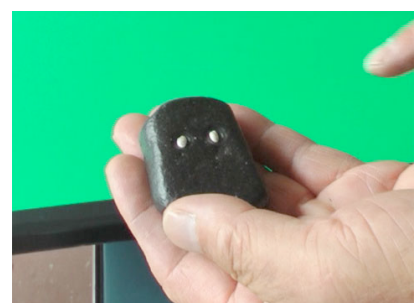
◆第三の眼



↑ 鉛筆の芯の彫刻

“極上の世界”ならぬ“極小の世界”です。

太さ3ミリの鉛筆の芯に彫刻します。出展した作品は、ミロのビーナス、リボン付きハイヒール、ストロー付きのジュースコップなど。針は穴が開いていることを示すため糸が通してあります。1つの作品を作るのに2～3時間かかります。6年前から、誰にも教わることもなく、自分でやり始めました。



石の小細工では般若心経が刻まれています。1つの文字の大きさは約1ミリです。（写真中）
米粒には36の文字が書かれています。（写真右）
昨年に引き続きのアーツ・ラウンド参加です。

◆パフォーマーたつみ



たつみさんのパフォーマンスは“YAMAGATA アーツ・ラウンド”ではお馴染みです。私（山口）のレポートでも2年前の“YAMAGATA アーツ・ラウンド”で詳しく紹介しています。

きょうも、マジック・ジャグリング・ダンスと、チョーが付くほどの見事なパフォーマンスを披露されました。特にジャグリングでは、練習の時には失敗ばかりだった6個のジャグリングを見事に成功され、拍手喝采を浴びていました。



↑ぬり絵コーナー



↑にがおえ



↑アコースティックライブ



つづいて、“だがしや楽校”に縁のある方の展示をご紹介します。

◆イラストレーション工房『バイク屋』



大江町の0kiさんによるバイク絵の展示です。写真と見間違えるほどのリアルさです。“YAMAGATAアーツ・ラウンド”では、すっかりお馴染みになりました。

0kiさんも当初から“YAMAGATAアーツ・ラウンド”のスタッフとして活躍しています。0kiさん、“だがしや楽校”では紙ブーメランのおみせでお馴染みです。

いよいよ、RIKUさんの出番です。

◆気まぐれ散歩道

RIKUさんは、携帯電話のカメラで、山形の風景を撮り続けていますが、“YAMAGATAアーツ・ラウンド”では、その写真を“気まぐれ散歩道”として展示しています。

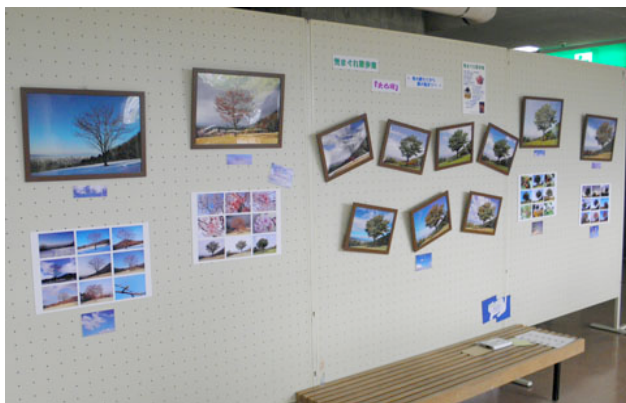


今回は屋内と屋外の2ヶ所で展示したのですが、屋外は、なんと県民会館前広場にある噴水池に写真を浮かべての展示です。

RIKUさんに尋ねたら、「去年もやりたかったのです」とのこと。これもアート（自己表現・自分みせ）です。



こちらが屋内の展示です。大山桜にこだわっての展示です。季節によって変化する大山桜に注目です。



それでは、“だがしや楽校”をご紹介します。

メンバーは、RIKUさん、KATSUさん、YAMATOさん、YAMATOさんの友人、芸工大の学生さんです。



場所は、県民会館と言っても、七日町通り側の軒下であり、お天気に左右される場所です。それでも、通りすがりの人には目立つ場所でもあります。

▼空き缶タワー



オッと、これは楽しい“空き缶タワー”。子どもも大人もみんな夢中です。空き缶にはテープを貼って倒れにくく(?)しています。

空き缶タワーは“だがしや楽校”ではめずらしい遊びですが、東根市のだがしや楽校で拝見した記憶があります。



写真中は、17個を積み上げて『本日の新記録』を達成して、バンザイするRIKUさんです。それにしても“YAMAGATAアーツ・ラウンド”で空き缶タワーですか……。これって最高です。よくぞやってくれました、という思いです。人は物事を型枠にはめたり、物事の意味合いを狭めてしまいがちです。しかし、それでは、自由な発想・柔軟な発想・創意工夫・創造力の目を摘み取ってしまうことになります。それは、生きがいをなくし、閉塞感だけが漂うことにつながります。

アートとは何か。ここまでご紹介した中にも「これがアート」と感ずるものがあつたかもしれませんが、しかし、みんなアートです。“YAMAGATAアーツ・ラウンド”では、自分がアートと思えば、出展・参加可能です。

▼松ぼっくりツリー



こちらはお馴染み“松ぼっくりツリー”作りです。女の子さんに人気でした。



午前中は来場者が少ないように感じましたが、午後になりますと、次第に人が増えてきて、“だがしや楽校”にもたくさんの人がやって来るようになりました。

そして、私が会場を後にしなければならない午後２時頃には、とてもにぎやかになりましたので、大変残念なのですが、これで取材・見学はおしまいです。

それにしても“だがしや楽校”は、どんなところで開いても、楽しく、違和感などありません。“YAMAGATAアーツ・ラウンド”には“だがしや楽校”もアートだから参加しているわけで、楽しいばかりです。

つまり、“だがしや楽校”が楽しいものになるかは、開く人・やる人の気持ち次第です。RIKUさんたちを拝見していますと、まさにその典型であり、本当に素晴らしいと思います。

さて、短い時間での“YAMAGATAアーツ・ラウンド”取材でしたが、このような催しを拝見して思うのは、発表する場の少なさです。

“だがしや楽校”は別にして、いくつかの展示等を取材して、中には“YAMAGATAアーツ・ラウンド”だけが展示・発表の場というものもあり、アート活動の大変さを、この日も感じました。もっとも、これは山形だけでなく、全国的に言えることは、私が全国各地の“だがしや楽校”を取材していて感じることです。

今回が事実上５回目だった“YAMAGATAアーツ・ラウンド”も、今後の開催については不透明なところもあるように聞いており、このあとの動向が気になります。

ただ、一方で取材しながら感じたのは、自己表現であるアートですが、意外に出展者の自己PRが弱いようにも感じたことです。たつみさんのように、パフォーマンスをしながら、しっかり自己紹介する人もいました。名刺を準備している人もいました。しかし、すべての出展者がそうだったわけではありません。

こんなことから“だがしや楽校”の『自分みせ』と大切さを、あらためて感じたのであります。

企画・制作・編集・文責
山口充夫
だがしや楽校コーディネーター